

令和3年度 宮崎ユニバーサル・カレッジ 学校関係者評価 1 (評価委員コメント記載 及びまとめ)

評価項目(重点項目)	評価指導	目標(方策・手立て)	判断基準	自己評価	総合評価	自己評価総合的な課題・今後の改善策				
1. 教育活動	○教育理念・課程に沿った授業計画・実践をしているか	○「分かる授業」の実践。 ○シラバスを見直し再構築する。	◎年度当初の講義導入時に学生にシラバス・授業計画を基に授業の目標・目的・進捗計画等を伝えられたか。	令和2年度 B(3. 1)	B (3.3)	●今年度も教務部が一括して取り纏め、冊子を作成して授業開始前に学生への配布を完了した。今年度も、導入し使用したとの意見がほぼ全数となり、教職員の意識改革としての「シラバス・指導計画事前配布」の成果はあったと判断する。今後は、本来の根本目的である「学生へ授業の目標・目的を浸透させる」ことと、毎年の効果を上げるために見直しを反映させたシラバス・指導計画のを確実に行うこと目標としたい。 結果の考察・分析及び改善策 AO取り纏め資料とは別に、シラバス・授業計画を講義初日の導入時に必ず配布して、目標・目的を明確にしている。 ○今年度後期から「二輪車整備」「二輪車構造」の継承のための取り組みを行い担当者へ引き継いた。(シラバス、講義計画、資料、教材の精査と改訂を行う) BO前期開始・後期開始時に学生へシラバスを配布し、全体の流れを説明できた。 CO感染症対策により課題対応の授業もあったが、昨年より進捗がスムーズであり、余裕をもって授業が実施できている。 ○資料内に確認問題を細かく取り入れることにより、理解度を知ることができるので次年度も継続をする。 DO前年度授業実績を基に指導内容および伝方などの変更を行っているため、今年度実績も次年度に反映させたい。 ○理解度の確認を行いながら、進捗状況の見直しを常に実行することで、欠点を減少させることができた。 EO担任・科目担当者として配布を行い、学生への伝達も伝えることができた。 FOシラバスの計画を基に授業を進め、単元ごとの要点を理解させる授業を行った ○実習授業と内容をリンクさせ、理解度の向上を図った。				
				令和3年度 B (3.3)						
				令和2年度 B(3. 1)						
				令和3年度 B (3.0)						
				令和2年度 B (2. 8)						
	○キャリア教育の視点に立った教育方法の工夫をしているか	○「建学の精神」の具現化に徹する。	◎授業においてキャリア教育に関する指導を行っているか。またその指導の定着を図っているか。	令和2年度 B(3. 1)	B (3.3)	自己評価総合的な課題・今後の改善策 ●全教職員ともキャリア教育について意識しているが、その成果にまでの言及はない。成果事例や定着度合いの検証を行い、次年度に繋ぎたい。 ●キャリア教育でもある「卒業生講話」も6年目を迎えており、そのため目標・目的・視点を見直すとともに、実施の主旨を再度考えての今年度の実施となった。「実施することが目的ではない」を掲げ、各学年ごとに特化した「卒業生講話」を実施する。その検証を踏まえ、次年度の内容を吟味して本当に必要な講話実践を目指す。 結果の考察・分析及び改善策 AO企業担当者との意見交換等で収集した情報を、教員との共有後、学生に伝えてきたが、学生に伝える場面が確実に少なくなってきた。その分、教員へ情報を提供しているが、企業の思いや事例が、教員に浸透して学生に波及しているかは確認できない。 BO最新の自動車業界の情報などを入手した場合には、学生へ展開することが出来た。 CO EV(電気自動車)の特長やセンシング技術について学び、授業に取り入れることを実践している。 ○進路指導については、学生が早期に目標を定められるよう、一層の工夫が必要である。 DO「教養」の授業を通じ、社会性や専門性などを伝える時間を毎授業で確保している。 EO目指す学生像に近づけることができるよう日々指導を行っている。 FOその時の授業内容が、将来どう関わってくるのかを理解させ指導を行った。 ○将来的な仕事内容に置き換えた内容の伝達を行っている。 ○卒業学年の担任であり、就職後も考え方指導を行っている。 ○進路や将来については常に指導を行っている。				
				令和3年度 B (3.0)						
				令和2年度 B (2. 8)						
				令和3年度 B (3.3)						
				令和2年度 B (2. 8)						
	学校関係者評価 ご意見・アドバイス等				○今年度当社(ネット宮崎が採用した卒業生)が開いた『卒業生講話』について、先生方の評価も引率した当社職員の評価は良かった。しかし講話の感想は先生方の感想のみで、大事な学生の感想は伝わってこない。学生の心に響く『卒業生講話』とするためにも学生の感想や要望を取り入れたものにしていて欲しい。 ●卒業生講話の見直し等は、学生を主眼に考えた改革と考え評価できる。教職員一人ひとりが同じ意識で見直しが図られる事を望む。					
	学校関係者評価まとめ				●教育活動の向上にゴールは無いと思う。学生自慢を教育の中心に据え、「更により良く」を教員一人ひとりが同じ価値観で取り組めれば、必ず「選ばれる学校」に近づけると考える。その取り組みを継続したい。 ●今年度は「学生のキャリア意識向上」のため、多岐に渡る取り組みを行った結果、思い描いた成果を見いだすことはできた。しかし、現時点では、次年度に向けての展望が見えない。早期のPDCAサイクルの構築を望む。					
評価項目(重点項目)	評価指導	目標(方策・手立て)	判断基準	自己評価	総合評価	自己評価総合的な課題・今後の改善策				
2. 学習成果	○資格取得率向上を常に考え取り組んでいるか又貢献しているか	○過去問題の教材研究を怠らない。 ○必須取得資格の未取得学生を常に意識した指導を行う。	◎現2年生の2級模試(12月期)において、担当した科目(1年・2年次に担当していた、又は担当している)のセクション平均点は6割を超えていているか。	令和2年度 C(2. 3)	B (3.0)	自己評価総合的な課題・今後の改善策 ●11月期3回、12月期2回実施した模擬試験をもとに4セクションをガソリンとジーゼルに分け正答率を分析した。()内は昨年度の数値。 【2級ガソリン】エンジン: 73%(75%)、シャシ: 64%(63%)、工学: 78%(80%)、法令: 92%(92%)⇒全てのセクションで判定基準の6割を超えている。エンジン、工学のセクションが僅かではあるがトがっている。シャシ、法令は前年とほぼ同じ進捗を見せている。 正常進捗と判断。 【2級ジーゼル】エンジン: 58%(59%)、シャシ: 54%(48%)、工学: 60%(58%)、法令: 84%(76%)⇒エンジン、シャシで6割を下回っている。エンジンのみ前年を下回ったが、以外は全て前年を超えている。ピッチを上げての取り組みが必要。 上記から、90%を超える習熟セクションは、2Gの法令しかない。上記の分析を踏まえ、まずは担当教員が現状の分析と学生個々の現状を把握して、その改善の方策を学科会で検討して組織で対応したい。 結果の考察・分析及び改善策 AO「法令」の担当者として、11月期に3回、12月期に2回の合計5回の模擬試験において、2G平均4.6(92%)、2D平均4.2(84%)〔昨年度は、平均3.9(78%)〕と目標はクリアしている。また、2Dにおいては、昨年度実績を上回ったが、全ての過去問題を授業で取り組んだ学生にとって、過去問題ベースの模試での結果は納得できない。 BOガソリンとジーゼルのエンジンセクションは6割を超えており、ジーゼルは早めに開始する必要を感じた。 ○数学は理解度が深く、繰り返し行う必要性を感じている。 CO学生の努力にて担当教科の正解数が6割に達している状況。 DO1年次の授業を担当しているが、時間の経過とともに忘れてしまう部分へのフォローに今後力を入れていきたい。 EO昨年度をベースとし、各個人にあった課題や勉強方法を考え、指導に当たっている。 FO難易度の低い問題が多い傾向にあるが、間違う学生が多い場合があるのでその問題を確認し、1年生に展開していく。				
				令和3年度 B (3.0)						
				令和2年度 B (2. 6)						
				令和3年度 B (3.2)						
				令和2年度 B (2. 6)						
	○就職内定率向上を常に考え企業との円滑な関係構築に取り組んでいるか	○学校行事と連携した企業との密接な関係構築に努める。	◎業務の企業窓口担当者は、積極的に行動・提案して、円滑・綿密な企業対応に心がけ学生・学校の評価向上に勤めたか。	令和2年度 B (2. 6)	B (3.2)	自己評価総合的な課題・今後の改善策 ●今年度より、学科業務の分担と責任者の明確化を図るために、進路担当者責任者と学生指導責任者の業務を2名の副科長が担い、担任の業務負担軽減とミスを予防するため、業務ごとの企業窓口を定め取り組んだ。進路開拓、企画開発については明確化は図れたが、学科業務においての担任業務の負担は見て取れたため、業務改善には至っていないと判断する。(聞き取りも含めての判断)これは業務遂行前の事前協議の不徹底によるものであり、しっかりとコミュニケーション等の連携強化が次年度の課題。教員間の「情報発信と共有」また「業務に組織で対応する」の姿勢を保ち学生・学校の評価向上に取り組む。 結果の考察・分析及び改善策 AO企業との友好な関係を続けていくためにも、学校側からの意見は企業側にハッキリと伝えて欲しい。我々企業側も学校に対して要望や意見を発信しているのだから。 ●学生の目的意識に未熟さを感じる。一部の学生は「分からないことが、分からない」レベルであるようだ。先ずはその未熟レベルを早期に明確にして、個々に指導するしかない。				
				令和3年度 B (3.2)						
				令和2年度 B (2. 6)						
				令和3年度 B (3.2)						
				令和2年度 B (2. 6)						
	学校関係者評価 ご意見・アドバイス等				○企業との友好な関係を続けていくためにも、学校側からの意見は企業側にハッキリと伝えて欲しい。我々企業側も学校に対して要望や意見を発信しているのだから。 ●学生の目的意識に未熟さを感じる。一部の学生は「分からないことが、分からない」レベルであるようだ。先ずはその未熟レベルを早期に明確にして、個々に指導するしかない。					
	学校関係者評価まとめ				●学校と企業とある一定以上の関係構築は出来ていると感じていたが、委員の方のコメントから「まだまだ企業との接点強化が必要」であることが分かった。今のようにホットラインを設け、学内職場担当者のもと、教員ごとに担当企業を決め、営業活動を行うことで更にステップアップした「ともに未来の整備士を見いだし育てる」の構築がさればと考えている。 ●評議委員のコメントにあるように「分からないことが分からない」と思っている。その事を教員側の問題として捉え、「教育方法の改善」「設定目標の見直し」「課外授業の取り入れ」等を学科会で早期に行い、方針を出し、繰り返しの反復練習勉強法にいたる学生の減少に取り組む。					

令和3年度 宮崎ユニバーサル・カレッジ 学校関係者評価 2 (評価委員コメント記載 及びまとめ)

評価項目(重点項目)	評価指導	目標(方策・手立て)	判断基準	自己評価	総合評価	自己評価総合的な課題・今後の改善策
		○学生と常日頃より良好な関係を築き、学習・進路・生活の支援を行なえていたか 3. 学生支援	○些細なことにも「気づこうとする」精神状況を養う。 ○無欠席の目標を掲げ取り組む。 ○些細なことにも「気づこうとする」精神状況を養う。 ○科目担当者として、必ず毎回授業中の情報を担任へ自ら提供したか。	令和2年度 C (2.5) 令和3年度 B (2.8) 令和2年度 B (2.5) 令和3年度 B (3.0) 令和2年度 B (2.8)		<ul style="list-style-type: none"> ●今年度より、「学科会」の平常定例実施が行えている。「学科会」の主旨は、情報の共有と発信、学科行事の早期検討である事を更に理解してすすめ、自動車工学科の「核」となる定例会になって欲しい。 ●「学科会」を自動車工学科の「核」とするためには、学科職員が「学生が主役」であるこの原点に立ち返り、入学してくる学生や保護者が「学校に求めていること（より良い職場、希望の職場への就職や確実な資格取得）」であることを再認識して即行動する組織の構築を図っていく。そのためには教職員一人ひとりが「迅速な情報の発信と共有」が根幹にあること再認識する。 <p>結果の考察・分析及び改善策</p> <p>AO学科会を平常化することは出来た。活発な意見交換と自主性・自発性をため介入しないようにしている。計画性と案件の掘り下げについて要望しないといけない面もある。「実施する」事に重きを置かず、「今必要な案件を組織としてどう対応するか」の審議に費やすて欲しい。 BO学生指導などの発言・発案は少なかった。 CO学生会活動・行事を含め、自分で考えて行動ができるよう助言を行う指導を行っている。 DO学生への自配りを心掛け、声掛けを常に行うようにしている。 EO科会等では自分自身が報告のみとなっているため、的確な良否判断できる能力を養い、積極的に発言を行う。 FO学生の学習指導は未だ不足している為更に時間を作り対応する必要がある。</p>
		○学生への目配りを怠らず、退学防止に努めているか				<p>自己評価総合的な課題・今後の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ●今年度の現在までの退学生・休学生について 【2年生】：退学者なし：休学者なし 【1年生】：退学者1名【進路変更となっているが、学習意欲の欠如と学生生活不適応が原因【復学から3ヶ月での不登校】】 1年生の退学者について、両親管理下による自宅通学要求を含め、あらゆる手段を尽くしたが、改善できなかった。復学するための、本人の意識確認が安易であったと反省している。 <p>結果の考察・分析及び改善策</p> <p>AO学生情報提供及び担任からの情報聞き取りご助言を直接担任と科長に積極的に行なった。今年度休学から復学した生の動機の曖昧さに事前指導を課し、本意の確認を学科主導で行なうように提案したが、組織として学科が対応する事ではなく、担任にその責任を課した対応になっていた。それが良い結果を生むのであれば良いが、遅刻欠席を繰り返し、前年と同じ指導致り返すこととなり、「親が行けと行ったから」とむなしい理由で退学に至った。 BO気になる学生を見かけたら、学生へ声かけを行うと共に、学級担任へ情報を提供した。 CO退学者が発生しないように担任との距離感を考え、主である担任の声が学生へ届きやすいように発言・行動をしている。 DO授業中の学生の状況や注意すべき情報を伝達している。 FO今後は、担任と連携し学生個人に対して細かな指導が行えるよう取り組む。 EO今年度の退学者は発生していない。（2年生） FO復学者の退学はやむを得ないと判断であったが、令和3年度入学生の退学者は0である。</p>
			学校関係者評価 ご意見・アドバイス等			<p>○1年の退学理由に「学習意欲の欠如」とある。学びの場である学校に「学びの意欲のない学生」を引き留めて就職させても早期離職に繋がると考える。厳しいようだが、自動車整備士は人命を預かるコンプライアンスの遵守が求められる職業である。その心構えを更に強化して教育に取り入れて頂きたく。</p> <p>●学生との時間を多くとり、学生一人ひとりの変化に気づける事が大事。それが寄り添う行動となり信頼に繋がる。信頼は学生との距離感をなくす。</p>
			学校関係者評価まとめ			<p>●先生方が、入学してくる学生や保護者が学校・教職員に求めていること（資格取得、より良い職場への就職）をしっかりと理解すれば、価値観の共有は可能と考える。そのための第一歩が「気付き」「気付かせ」「気付き合える」ことを常として「情報発信」しながら組織での対応力を上げていきたい。 ●学習の意欲を高めるための取り組みは、キャリア教育にも繋がる。企業と連携を図りながら、自分の将来像をイメージできるような取り組みを行なながら中から、「学校で学ぶ意味」を理解させていきたい。</p>
						<p>自己評価総合的な課題・今後の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ●まずは雑多となっている実習場の教材・機器の整理・整頓・廃棄が先決。それを行ってから、正確に管理された「教材・機器・備品リスト」を教員への配布してからのスタートと感じる。そのリストをもとに「今回の授業で、何をどれだけ使用する」等の申告を行い、教員間で把握出来る体制を作りたい。 ●1年生に「二輪実習室」、2年生に「資格対策室」が準備できている更なる充実を目指す。 <p>結果の考察・分析及び改善策</p> <p>AO教室の整理整頓は行えているが、各学年の教材準備室が充実しているとは言えない。実習場の整理整頓もされているとは言いかたい。二輪教材・その他の教材置場を二輪実習スペースに変える取り組みを行った。 BO単元が終了する度に、後片付けを意識し『元の位置へ戻す』ことを意識したが十分ではなかった。 CO設備管理への協力が不十分だったと反省をしている。 DO危険個所の有無について点検を実施し、修繕箇所の提案を行っている。 EO共有機器、備品、工具は毎回片付けるよう心掛けている。 FO機器備品の整理整頓を行っている。</p>
						<p>自己評価総合的な課題・今後の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ●毎年10月には学科の「今年度の現状」「次年度の構想」「次年度の要望[人的・物的]」を明確にして、学科教職員で共有するよう取り組んでいく。 ●それが全ての基本となる。 ●実習場の機械・機器・工具の点検・改修・補充を行った。教育環境の維持に繋がっているが、管理徹底とは言いかたい。学生の夏季休暇中に管理時間を設定する。（次年度管理徹底する。） <p>結果の考察・分析及び改善策</p> <p>AO科目担当者としての、必要な機器・教材については常に要望を行っている。しかし次年度の要望は前年度の10月には決定しないと授業計画は立てられない。そこからの意識改革が急務。 BO特定整備に関する機器を購入し2年生に対し授業を行う事が出来た。 CO備品については時間をつくってでも補修を行なう必要がある。 DO機器・備品の取り扱いには注意し、学生への注意喚起を行っている。 EO新たに使用する機器備品については、前準備を行っている。 FO昨年に引き続き実習で使用するジーゼル・エンジン4機の購入要望を行った。</p>
		学校関係者評価 ご意見・アドバイス等				<p>○学生にとって本当に必要な教材が購入されているか点検すべき。今後、自動車整備士の環境、整備事業場の環境は大きく変わる。教育の現場もリモート化等の時代が要望する流れに乗り遅れることなく環境改善を図って欲しい。</p> <p>●先づ今年度使わなかった物を洗い出し断捨離を行う。（「もしかして」「急のために」は必要な物ではない）捨てなければ必要も物は見えてこない。</p>
		学校関係者評価まとめ				<p>●教材・教育機器・機械工具は、養成施設にとって大変重要な物。しかしそれらの品質は、保有数よりもはるかに重要（規定に括触しない範囲で）。学生が興味を示す物は「不動」ではなく「実動」する物、さらに「欠損品」ではなく「完全品」である。先づそのことを判断基準に「廃棄」の見直しを図り、生きた教材・機器類の補完を急ぎ実践する。また、この内容は昨年度も目標に掲げたが改善できていない事件もある。</p> <p>●令和9年3月から資格制度が変わる。養成施設カリキュラム・教材と令和7年度から新規定での養成となる、捨てなければ新しいことは始められない。</p>

令和3年度 宮崎ユニバーサル・カレッジ 学校関係者評価 3（評価委員コメント記載 及びまとめ）

評価項目(重点項目)	評価指導	目標(方策・手立て)	判断基準	自己評価	総合評価	自己評価総合的な課題・今後の改善策
		<p>○学生募集活動を積極的に行っているか</p> <p>○募集定員を確保できるように全教職員で取り組む。</p>	<p>◎担当地区の募集目標を達成できたか。</p> <p>◎担当校に特化したオリジナル資料を作成して募集活動を行ったか。</p>	<p>令和2年度 B (2.6)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ●現在、定員目標に対して68%の充足率（34名の入学手続き） <ul style="list-style-type: none"> ・【担当教員内訳】 充足率200%：1名、充足率75%：1名、充足率71%：1名、充足率56%：1名、充足率50%：1名、充足率0%：2名、の状況であり、前年比85.0%と苦戦している。 ・昨年度6校が複数名の出願があったが、今年度は、NGH：14名、佐土原：3名、日大：2名、鵬翔：2名、と4校に減り6名減少した。 ・2年以上の出願のなかった5校から、6名の出願があった。 ・過年度生については昨年度の4名から、現在2名の状況である。過年度生は僅かではあるが、今から伸びる可能性がある。 ●担当地区・担当校の特性や特色の分析はまだ不足していると感じる。
5. 学生募集		<p>○学生募集活動において、教育活動成果を適切に対象校担当者に伝えていているか</p> <p>○高校訪問を常に意識して情報発信を心がける。</p>	<p>◎担当の重点校には、毎回面談頂けるMUCファンの先生がいるか。</p> <p>◎決められた情報提供に終わらず、高校毎の特色を考慮しプラスαとなる情報提供を行ったか。</p>	<p>令和2年度 B (2.8)</p>	<p>令和2年度 B (2.8)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●前年比135%であった前年度から、今年度は現在前年比85%と苦戦している。昨年度、「一過性のもので終わらないように、気を引き締めて取り組む」と目標を立てていたが、前年並みにも届いていない。最低でもあと6名募集を成功させ、前年の入学生40名はクリアしたい。 しかし、本校を支援して下さる各高校の先生方が居られるからこそ現状があることと、その各高校の先生方との接点を大事にされているのは、本校教員の地道な取り組みがあつてからこそ今があると感じる。だからこそ、先生方の努力を無にしないように前年を死守したい。 ●募集の打合せ会で、企画広報部へ全教員から「提案・要望」ができる募集意識の活性化を図りたい。
		学校関係者評価 ご意見・アドバイス等		令和3年度 B (3.0)	令和3年度 B (3.0)	<p>結果の考察・分析及び改善策</p> <p>○募集地区ごとに年々になり、特に以前のガラガラな状況から、今ではしっかりと情報収集を行なっており、高校ごとに特色資料の作成を行なった。</p> <p>○自動車整備士を養成する学校であると認識して頂いた。</p> <p>○学校毎の特色を活かした資料などは作成出来なかつた。</p> <p>○本校の特色や活動は資料等を活用してアピールできている。</p> <p>○主事を含む進路指導室の先生方全員へ向けて声をかけ、打ち解けられる状況を構築中である。</p> <p>○学校行事や方針などを伝え、本校への信頼をいただけるよう取り組んでいる。</p> <p>○高校側より相談や情報提供をさらにいただけるよう取り組む。</p> <p>○車両調査が写真撮影の情報提供が行なわれた。</p>
		学校関係者評価まとめ				<p>○自己評価が改善していることに、先ず感謝申しあげたい。先生方の努力が今後の宮崎県における自動車整備業界を支えている。大変な時期であると思うが、地道な活動の積み重ねで安定した学生体制を構築して頂きたい。（2年以上出願のない5校との接点の見直し等）</p> <p>●情報があふれる時代、いろんな募集方法はあると思うが、地道な訪問活動や職業紹介・学校紹介が基本を感じる。顔が見える取り組みをされている先生方の信頼は搖がない。</p> <p>●学生募集に関しては、宮崎県の自動車整備士養成の基幹養成施設であり続けるなければならない。現在、県内にある専攻科は大きく募集には影響はないが、評価は高まりつつあると感じている。本校教職員が寄ることなく、本校の強みをしっかりと押し出した募集に傾注する必要がある。</p> <p>しかし、自動車整備士要員不足は宮崎県に限ったことではなく、宮崎県の自動車業界全体で取り組むべき課題であり、学校は今まで以上に企業に応援要請をするべきだと感じている。</p> <p>●学生募集については、先生方の「熱意」がすべてに波及しての成果だと感じている。後援会・同窓会も連携して応援したい。</p>

※授業評価は4段階評価です。よって最高評価は4.00です。

■ 評価の基準は、 A (4) :期待以上、 B (3) :ほぼ期待通り、 C (2) :やや期待を下回る、 D (1) :改善を要する